

議決権行使レポート

証券コード 6218

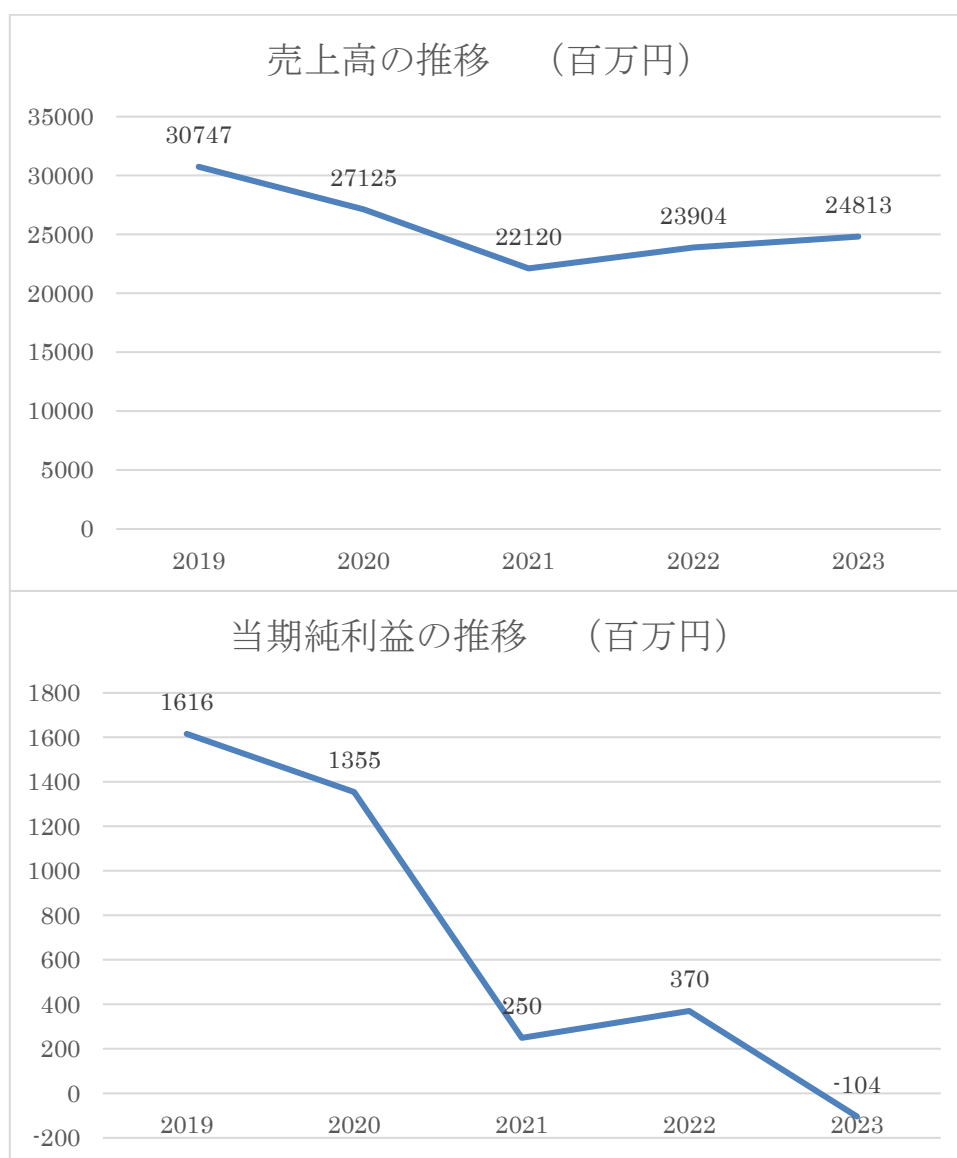
会社名 エンシュウ株式会社

	賛成	反対	棄権
第1号議案 剰余金の処分の件	○		
第2号議案 取締役3名選任の件			
勝倉 宏和 氏	○		
鈴木 敦士 氏	○		
墨岡 良一 氏	○		
第3号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件			
石塚 信 氏	○		

上記の推奨をした理由

〈第一号議案について〉

同社は今会計年度において1億400万円の純損失を計上しているが、安定配当を重視し、前期同様、一株当たり13円を期末配当金とすることを提案している。同社の業績を確認すると、確かに最終的な当期純利益こそ赤字になっているものの、売上高は前期を上回っており、会社の運営そのものに特に問題はないといえ、様々なコストの高騰や将来に向けた開発費、販売費の増加が赤字の主な原因となっている。コストの高騰に関してはすでに価格転嫁を始めており、収益性を高める努力もさまざま計画されていることが示されている。今後の業績改善に期待が持てることにより、配当性向はマイナスとなるが当議案に賛成する。参考として、下図に直近5年の売上高と当期純利益の推移を示す。



〈第二号議案について〉

全員を賛成とした。当期は赤字を計上しているものの、これはウクライナ問題や世界的な物価高騰に起因するところが多く、特に取締役の責に当たる問題ではないと判断した。勝倉、鈴木両氏は同社の役員をそれぞれこれまで約10年務めているが、取締役会へは毎回出席しており、またその間多少の浮き沈みはあるもののおおむね順調に会社運営がなされていることから取締役への再選任に特に問題ないとする。ただし、役員若返りを目指すという同社の指針に則れば、新しい役員を選任する可能性を模索する必要がある。墨岡氏は社外取締役候補として選任されている。同社の主要取引先であるヤマハ発動機でかつて勤務していた経験を持つが、すでに同社役員を退任後6年が経過、また退任後就任した同社顧問も退任後3年が経過している。同社株も保有しておらず、十分に独立性は担保されていると判断し、賛成とする。

〈第三号議案について〉

石塚伸氏は弁護士として豊富な知見を持ち、企業法務に長年携わってきた経歴を持つ。他社の社外監査役にもすでに就いており、また同社の株式も保有しておらず、独立性も十分に担保されており、補欠の監査等委員である取締役として選任することに特に問題はないと考え、賛成する。